

平成 28 年度第 1 回多治見市総合教育会議 議事録

(要点筆記)

日 時：平成 28 年 9 月 29 日（木）午後 4 時 00 分 ～ 午後 5 時 20 分

場 所：多治見市役所駅北庁舎 4 階大ホール

出席者：【会議構成員】

多治見市長	古川雅典
教育委員長	西尾英子
教育委員長職務代理者	中澤香代
教育委員	小林甲一
教育委員	前田市朗
教育委員	渡辺哲郎（教育長）

【事務局】

《教育委員会》

永治副教育長、鈴木教育次長、仙石教育総務課長、河本教育研究所長
丹羽調理場長、高橋教育推進課主幹、安田校長会長、
伊藤課長代理（教育推進課）、加藤課長代理（教育相談室）、
大竹課長代理（教育総務課）、岡安総括主査（教育総務課）

《市長部局》

水野福祉部課長併教育委員会事務局課長、柚木崎企画防災課長（企画防災課）、
土本主査（企画防災課）

1 市長挨拶

先日の台風 16 号への対応について、教育委員会の適切な対応にお礼を述べたい。広域に避難勧告を出したが、避難所となった学校においては、迅速な対応をしていただいた。感謝申し上げます。

また、西尾委員が退任し、木下さんが教育委員として新たに就任することとなった。市議会においても、木下さんは堂々として自身の考えを述べられ、今後の教育委員としての活躍に大いに期待している。教育委員会は、事務局や学校現場が決めたことを追認していくのではなく、市民や保護者としての視点も忘れず、教育行政の先頭に立ってしっかりとチェックしていただきたい。

私が出張で東京に訪れた際、小学校と幼稚園が一つの校庭を共用している様子を見かけたが、教育委員会でもそのような一体感のある運営のあり方を十分に議論してほしい。

市長としては、教育行政に対して市長が強力な権限を行使するというあり方には反対である。学校現場のことは教育委員会及び現場の責任者である学校長に、自信を持って動いてほしい。

2 教育委員長挨拶

明日で、無事に教育委員としての任期を満了する。教育委員としての 8 年間、いろい

ろ支えていただき、感謝申し上げたい。

古川市長から示していただいた、市長ではなく教育委員会が教育行政の先頭を切っていくという方針のもと、委員会で様々な課題について議論するとともに、その責任を感じながら8年間過ごしてきた。4大プロジェクト、駅北庁舎の子育てフロアなど、いろいろなことがあったが、とにかく走り続けてきた感覚である。その時々、目の前の課題に対し、教育委員会事務局、学校現場が一丸となってここまでたどり着けたと感じている。これからは一市民として8年間あったことを伝えていきたいと思うのと同時に、今後の皆様にも期待している。

本日は視察の件も踏まえ、本会議で、次の方向性を見いだせるような議論をしていきたい。

3 議題

(1) 放課後児童健全育成事業について

【前田委員】

江戸川区では学童に関する予算が多額である。多治見市では、限られた予算の中でどのように工夫をしていくのか知恵を絞る必要がある。また、多治見市では、学童に通うための公共交通手段が都心のように整備されておらず、夜など安全を確保しつつ実施することが課題であると感じた。

いずれにせよ、子どもたちが楽しんで、元気に動いている姿を大切にして、自分自身が教育委員としてできることをしていきたいと感じた。

【中澤委員】

江戸川区のすべての子どもたちを引き受けるという仕組みは、多治見市とは全く異なった制度であり、このまま本市で導入するのは難しいと感じた。良いところは取り入れていけるとよいが、一方で、ただ受け入れるのみで教育的な取組を行わないというあり方には、残念な感想を持った。

江戸川区は補助金を受けていないため、細かな制度に縛られることなく、自由な事業展開をしている。

子どもにとって安らぎの場であると同時に、しつけなどの学びの場となるような学童のあり方を望みたい。

【小林委員】

多治見市では、小学校の施設を活用したたじっこクラブが始まっており、次世代育成の場が駅北庁舎以外にも始まっていると捉えることができる。そのような背景の中、市長と意見交換ができるのは大変意義深いと感じる。

江戸川区は、若い人口が集まり、それを生かしてまちづくりをしており、すくすくスクールというコミュニティスクールがうまく機能していると感じた。そのやり方をそのまま多治見市に持ってきた場合、面白いと感じる部分もあるし、やはりう

まくいかない部分もあると感じた。

現場の教職員に聞いたところ、やはり最初は連携するのは大変であったが、今では連携している事にやりやすさを感じているとのことであった。また、学童では学校では見せないような姿が見られるなど、ある意味閉塞感から解放されるといった様子も見られるとのことであった。

かつては、一度下校したら学校に来てはいけないといった指導も見られたと思うが、昔の学校のように自然に学校に集まるような、ある意味理想的な空間が実現できているように思う。そのような空間づくりが多治見市でもできるとよいと思う。

【西尾委員長】

江戸川区の取組に魅力を感じた。学童に来る子どもと、普通に遊びに来る子が、ともに学校で過ごしていることが特徴である。地域で育てるということをよく聞くが、江戸川区には実際に取組んでいる地域の方がおり、そういった人たちによって運営組織ができている点が素晴らしい。

【渡邊教育長】

江戸川区では子どもの遊び場がないと聞いた。一方多治見市では、児童館があり、そういった異なる背景があることから、江戸川区の取組をそのまま多治見市で展開することには違和感がある。

多治見市では退職した学校長を配置していることもあり、そういった人財の活用に可能性を感じた。

【水野福祉部課長】

江戸川区では厚労省の補助金を受けていないことから、自由な事業展開をしており、面積要件で苦慮している本市の現状とは、大きな違いを感じた。

地域との連携については、本市においても委託先の法人で様々な工夫をしている点を報告したい。

【市長】

本視察に、副教育長が参加していないことが大きな反省点である。教育長及び副教育長は、視察に参加し現場を必ず見ること。学童については、教育現場を管理している学校長に理解していただかなくては、物事が進展しない。学校長と同じ目線で議論のできる副教育長は、理想論ではなく現実的な議論をするためにも、現場を見ておかなければならない。

ホワイトタウンをはじめ、地域に人財はいくらでもいる。こういった方たちと学校との間に副教育長が入り、ルールづくりなどをうまくすれば、本当に良い仕組みができると考える。

【小林委員】

児童館に代表される児童福祉は、今の国の施策からすれば取り残されたものとなっている。すくすくスクールは、端的に言えば、そういった児童館を学校に取り込んだ仕組みともいえる。

学童へ行く子ども、児童館へ行く子ども、どちらにもいかない子どもがあり、それぞれに取組を行っている状況はもったいないと感じる。

【市長】

現在、市有施設のファシリティマネジメントに力を入れている。児童館においても、各小学校区に必ず設置しなければならないという考えは持っていない。学校に児童館の機能を持たせていくということは、子どもにとっても有意義であると感じる。

【中澤委員】

学童は有料である一方で、児童館は無料である。そのような観点からそれぞれに役割があるように感じる。学童が広く門戸を開き、親の所得に関係なく利用できるものであれば良いと思う。また児童館や学童で起こったことが、うまく学校に伝わるような仕組みづくりも、重要である。

【小林委員】

児童館と学校とのつながりはあるのか。

【安田校長会長】

私が脇之島小学校に勤務していた際には、児童館から報告があった。現在勤務している滝呂小学校でも、よいこと、よくないことを含め、連絡がくる。

【前田委員】

今は、公民館で遊んでいる子どももいる。地域の老人との交流など、公民館の指定管理者も積極的に取り組んでいる。そういう意味では、集約することにより効率化が図られるかもしれない。

【小林委員】

児童館を定期的に利用している子どもはどの程度か。

【水野福祉部課長】

利用延べ人数は把握しているが、実利用者数は把握していない。

【安田校長会長】

滝呂では、学校と児童館がかなり離れており、児童館に行きづらい状況である。

【市長】

子どもにとってこういった形がよいのかが大切。私は、それらが学校一か所にあった方が子どもの発達などの観点からよいと感じるが、議会も住民も公共施設の廃止に対する抵抗感は極めて強い。行政運営の合理化ではなく、子どもの教育の観点から、学校を開放していきたい。ただし、教職員の負担を増やすのではなく、地域の住民の力を活用してそれを行っていききたいというのが市長としての意見である。

【中澤委員】

子どもが多い学校ほど、学童のスペースが少ないのが現状である。

【市長】

教室であっても、机を後ろに下げれば使える。境界を設け、ここからは利用不可という考え方ではなく、境界を明確に設けず、もっと柔軟かつ開放的に使えるのが理想である。根本交流センターは、それに近い取組みをしている。

【小林委員】

多治見市では、児童館機能も含め、学校に集約していくことを理想とし、それに向かってできるところから進めていくという考えでよいと思う。

【前田委員】

地域間の差もあることから、できる地域から進めていくという考え方でよいと思う。

【市長】

そう考える。できるところからやっていく。地域的には、笠原に可能性を感じる。学校現場に十分に理解をしていただき進めていきたい。

【安田校長会長】

しっかりと予算を確保して、進めてほしい。それにより、学校現場の受け止め方が異なる。

【小林委員】

それほど予算は必要ないように感じる。

【市長】

場所の使い方を工夫すれば、それほど予算を必要としない。また、それにより重複した施設が廃止できれば、その財源を充てることができると思う。

【小林委員】

現在の児童館の管理費はどの程度か。

【水野福祉部課長】

約 1.5 億円である。

【永治副教育長】

学校も意識を変える時期に来ている。総合計画に掲げる「まるごと元気」を学校や子どもたちを通して実現するには、どうしていきべきかを考えるべき。子どもは、学校にいても、学童にいても、やはり多治見市の子どもである。そういう意識を持つ必要がある。

現在あるコミュニティスクールを、新たなコミュニティスクールに生まれ変わらせていくという手法でも実現可能である。

【小林委員】

一つの地域をトップランナーとしてやってみるのがよい。

【永治副教育長】

学校には、現に空いている教室がある。そこを活用して、地域づくり、生涯学習の拠点を作っていく。

【小林委員】

ホワイトタウンでは、若い世帯が戻ってきているように感じる。今回議論している取組は、若者が多治見市に移り住んでくれるきっかけにもなり得るもので、その地域のみならず、多治見市全体にも有意義である。

【市長】

まずは人財の確保と仕組みづくりを地域で行い、その上で学校と協議するのが理想である。脇之島や笠原ではそれが可能である。多治見市における理想のあり方を整理し、3年後を目標に試行すること。

【安田校長会長】

小学校部会で、学校現場でどういったことが心配であるかを整理したい。

【仙石教育総務課長】

同じ学校でも、本当に課題は様々である。一つ一つの課題に追われてしまうのではなく、こういう姿を目指したいというものを見据えて、それに向かって進めていきたい。

【安田校長会長】

保護者の意識を高め、巻き込んでいくことが必要。また、重ねてのお願いではあるが、予算の確保をお願いしたい。

【市長】

保護者の要望が無ければ、ただのおせっかいになってしまう。各校のPTAに入ってもらい議論を進めていく。もしも、その議論において不要であるという結論であれば、その校区では実施する必要はないと考えている。

予算については、できる限り確保していきたい。

【西尾委員】

PTA間で、不公平とならないように留意願いたい。

【市長】

やる気があるところから、進めていく

【市長】

平成28年度第1回総合教育会議を閉会する。

以下は、議論なし。

- (2) 多治見市の教育行政に係る意見交換
- (3) その他

以上